

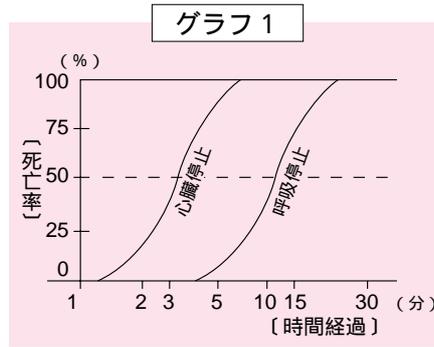
いざというときにも

寒さも厳しくなり冬に起こりやすい

119番通報や応急手当て

「救命のリレー」を迅速・的確に

突然のけがや病気にみまわれ心臓の鼓動が止まってしまったときには、グラフ1のとおり、「心臓停止後三分で五〇%の死亡率」と言われています。救急



車が到着するまで五、六分。この間、そばにいた人の対応が救命につながります。図1のように、その場での適切な行動が救命の「リレー」のスタートになるのです。

素早い119番通報

落ち着いてはつきりと伝えましょう。上手な救急通報の例は次のとおりです。

「救急です。歳の幼児がひきつけを起こし、意識がありません。家の場所は 町 丁目 番地、 中学校の東側。わたしの名前は で、電話番号は です」

通報では次の六点に注意しま

しょう。

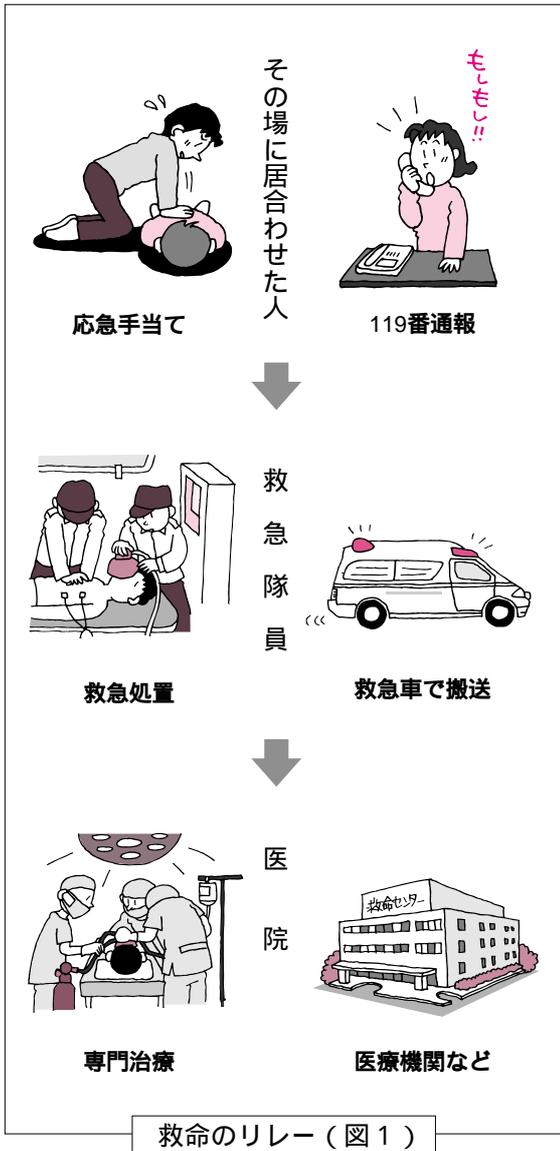
「救急」か「火災」かはつきりさせる 住所や大きな建物などの目標物を確かめてから通報する できれば一般電話から通報する(消防本部で場所を特定し易くなります) 携帯電話やPHSからの場合はその旨を伝える 通報者の名前と電話番号を忘れずに 周囲に人がいれば協力を依頼し、通報と同時に応急手当てを始める。

適切な応急手当て

ためらわず勇気を持って、人工呼吸、心臓マッサージを行いましょう。119番通報をした後、電話をつないだままで通信指令課の職員から、具体的なアドバイスを受けられます。

救命講習会もあります

講習会で応急手当ての経験が



一回でもあると、いざという時大いに役立つそうです。ぜひ、消防本部で年六回行われている講習会に参加してみませんか。開催日や申し込み方法などについては本紙で随時、掲載しています。

また、これ以外にも、十人程度の人数が集まれば、講習会を開催しています。場所は消防本部や地区公民館などのほか、開催を希望する会社や団体などで用意した会場などへも職員が出向いて、講習してもらえそうです。

申し込み 月曜～金曜 午前8時30分～午後5時15分 消防本部 警防課 220 4513、または各消防署・分署へ直接 だれでも使える救命機器

昨年七月から、自動体外式除細動器(AED)という機器が一般の人でも使えるようになりました。これは心臓発作などで倒れた人に電気ショックを与え心臓の動きを正常に戻すもので、音声で使い方の指示が出るので、操作は簡単です。また、コンピューター制御で不要に作動することはありません。 応急手当てでこれを使うことができれば、さらなる救命率のアップが期待できます。今後、多くの人が集まる公共の場へ常備する計画も全国的に進んでいるとのことでした。